



菅波 茂

3月11日。人道援助宗教NGOネットワーク（RNN）主催の東日本大震災被災者の合同慰霊祭が黒住教の本部のある神道山で実施され、多宗教の宗教者の方々とともに慰霊と復興を祈った。AMDAは「救える命があればどこへでも」のスローガンのもとに岩手県の金石市や大槌町、宮城県の仙台市や南三陸町などで緊急救援医療活動を実施した。それでも亡くなられた被災者の方々に對しては慰霊しかない。緊急救援医療活動にはRNN会員の宗教家の方々がAMDAの調整員として被災地での活動に参加してくださった。多くの寺院が被災していた中で、被災地の宗教家や被災者

の方々から喜ばれたのは、遺体安置所やお寺における読経だった。宗教者の方々は袈裟を持参されており、乞われると読経された。我が国の災害被災地における医療と宗教の連携の最初の事例だった。
RNNの歴史と活動を紹介したい。
1994年に岡山国際貢献を推進する会が結成され「おかやま国際貢献NGOサミット」を開催。そのテーマに、「医療・教育・環境に加え、「宗教」を据える。当初の事務局はAMDAスタッフが担当させていただいた。NGOサミットに集う宗教者により「祈りに基づく行動と行動を伴う祈り」をコンセプトに1996年、RNN：人道援助宗教NGOネットワークが生まれ、96年以來毎月定例会議を開いている。神道、仏教、キリスト教、

東日本大震災から1年

イスラム教など12団体に参加。RNN事務局ではAMDAが緊急救援活動開始する速報を、各参加団体に転送し募金を集めていただいていた。ちなみに、一貫して事務局としてお世話役に徹しておられる黒住教本部とのご縁は、30年前に第六代教主の黒住宗晴氏に岡山の伝統や精神文化などご教示いただいたことにさかのぼる。

AMDAの被災地復興支援3カ年計画も2年目に入った。主な3項目を紹介したい。最初は医療機関支援である。公立志津川病院には、足りない看護師の雇用費を支援し、また夏、冬そして春と被災した職員の休養補充のために2週間単位で



黒住教、金光教、真言宗、天台宗、立正佼成会が参加した3月11日の東日本大震災RNN慰霊祭一黒住教本部日拝所で

灸院と集会所で構成。被災地の人のための交流と被災地支援の確かなニーズ発掘と迅速な支援が目的である。3人の専門スタッフとAMDA大槌クラブやAMDA高校生会in大槌のメンバーが活躍している。被災地間交流や相互扶助も大きな目標である。3月4日には大槌町から53人がチャーターバスなどを使得って気仙沼の猪苗代病院や商店街を訪ね被災者同士の交流の機会を設けた。2011年度から岡山経済同友会が実施している岡山からの夏休み大学生派遣の受け皿としての機能も果たしている。AMDAグループ代表

AMDAの被災地復興支援3カ年計画も2年目に入った。主な3項目を紹介したい。最初は医療機関支援である。公立志津川病院には、足りない看護師の雇用費を支援し、また夏、冬そして春と被災した職員の休養補充のために2週間単位で健康サポートセンターの設立と運営である。鍼灸師の雇用費を支援し、また夏、冬そして春と被災した職員の休養補充のために2週間単位で